

科目名	看護学原論 I (看護の基盤) Principles of Nursing I		担当教員 (研究室番号)	灘波 浩子 (203) 川島 珠実 (202)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次前期	科目区分	専門科目・実践基盤看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	科目等履修生 オープンクラス	否 否
科目目的	看護の歴史および看護の基本概念の学習を通して、看護学への関心を高め、看護に携わる者として自らの考えを持つための基礎を築く。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	A 人間の生命・尊厳・権利を擁護する社会的基盤について理解し、倫理観に基づいて行動することができる。(姿勢・態度) G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の成り立ちと歴史の変遷(教育制度の変遷を含む)を踏まえて、看護の変化について考えることができる。 2. 看護の対象となる人間とその生活を通して、看護の主要概念「人間」「健康」「環境」「看護」を自分なりに説明できる。 3. チーム医療における看護師の役割と医療安全について考えることができる。 4. グループワークで自己の考えを説明しつつ、他者の意見を受け入れ発展させることができる。 											
成績評価方法(基準)	課題レポート(3回)による総合評価を行う。なお、課題レポートはそれぞれ60%以上の評価であることを単位認定の条件とする。											
再試験の有無と基準等	課題レポートが合格基準に達しない者のうち、本人からの申請を担当教員が認めた場合、再度レポートを提出することができる。											
教科書	宮脇美保子編：看護学概論、メヂカルフレンド社 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯積ます他訳：看護の基本となるもの(再新装版)、日本看護協会出版会 フロレンス・ナイチンゲール著、薄井坦子他訳：看護覚え書、現代社											
参考書等	菱沼典子：看護学への招待、ライフサポート社 日本看護協会：看護師の倫理綱領 そのほか、授業内で適宜紹介する。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、学習者の能動的な学習への参加を基盤に仲間と共に学び合う協同学習を取り入れて進めます。主体的な学習を行ったうえで授業に参加し、グループでの話し合い等を通して、他者の考えを尊重しながら自分の意見を適切に主張する態度を身につけましょう。 ・テキスト・自ら調べた資料やこれまでの経験、『三重を知ろうI』の体験を教材として、「看護とは何か」「看護師は何を行う者なのか」について、自分の考えを深めましょう。 											
備考	・課題レポートは、指定された提出方法・提出場所を守り、期限までに提出すること。やむを得ない事情で期限内に提出できない等の場合は、その理由および今後の対応について担当教員に報告・相談すること。											
回	学習項目			学習内容				主担当教員	授業方法			
1回	オリエンテーション 看護を学ぶということ			本科目を学ぶためのガイドを示す。				灘波	講義			
2回	看護の歴史			専門職としての看護の歴史変遷(教育制度の変遷含む)について学ぶ。 *課題レポート				川島	講義 演習			
3回	看護の対象			看護の対象である人間、人々の暮らしと社会について考える。				灘波	講義 演習			
4回	健康と環境			人々の健康の意味、疾病や障害、環境が及ぼしあう影響について考える。				灘波	演習			
5回	看護の基本概念			看護の基本概念(人間・健康・環境・看護)について個人・グループでまとめ、発表する。 *課題レポート				灘波	演習			
6回	看護実践の場			看護サービスを提供する場、および医療チームにおける看護職の役割に付いて学ぶ。				灘波	講義 演習			
7回	医療安全			医療安全の概念を学び、患者中心のアプローチを通じて、医療ミスを予防し、患者の安全を確保する方法を検討する。				灘波	講義 演習			
8回	専門職としての看護			専門職として看護師に求められるもの(能力、資質、技術、その他)について検討する。 *課題レポート				灘波	講義 演習			

学 習 課 題	
1回目(事後)：	「看護とは何か」について、いまの自分の考えを言語化する。
2回目(事前)：	テキストを読み、看護の歴史・変遷について概要をつかむ。 (事後)：グループワークを踏まえ、看護の歴史・変遷についてレポートに整理する。
3回目(事前)：	テキストを読み、人間と生活について指定された用紙に整理する。
4回目(事前)：	テキストを読み、健康と環境について、指定された用紙に整理する。
5回目(事後)：	グループワークを踏まえ、看護の基本概念(人間・健康・環境・看護)について、自己の考えをレポートに整理する。
6回目(事前)：	テキストを読み、チーム医療と看護について、指定された用紙に整理する。
7回目(事前)：	テキストを読み、医療安全の取り組みと課題を自分なりに考えてくる。
8回目(事前)：	テキストを読み、専門職としての看護に求められるものについて自分の意見を考えてくる。 (事後)：これまでの学習を通して導き出した『専門職としての看護(仮)』について、自分の考えをレポートに整理する。

実務経験を活かした教育の取組
・担当教員は、看護職としての実務経験に加え、看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義・演習を行う。